

Agent for Microsoft SharePoint Server

Arcserve® Backup for Windows

19.0

The logo for Arcserve, featuring the word "arcserve" in a lowercase, sans-serif font. A registered trademark symbol (®) is located at the top right of the letter "e".

法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(iii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供 :アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2022 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® Backup
- Arcserve® Unified Data Protection
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Windows
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve® Replication および High Availability

Arcserve Backup マニュアル

Arcserve Backupドキュメントには、すべてのメジャー リリースおよびサービス パックについての特 定のガイドとリリース ノートが含まれています。ドキュメントにアクセスするには、以下 のリンクをクリックします。

- [Arcserve Backup 19.0 リリース ノート](#)
- [Arcserve Backup 19.0 マニュアル選 択メニュー](#)

Arcserve サポート への問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

[テクニカル サポート への問い合わせ](#)

Arcserve のサポート :

- Arcserve サポート の専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャット では、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話を行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

コンテンツ

第1章: エージェントの紹介	9
エージェントの特徴	10
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 の機能	11
Microsoft SharePoint Server のサポート	12
SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作	13
第2章: エージェントのインストール	15
環境に関する考慮事項	16
インストールの前提条件	17
Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項	18
エージェントのインストール	19
Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログボックス	20
SharePoint システムでのエージェントの設定	26
第3章: SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムのバックアップ	29
SharePoint 2010/2013/2016/2019 でのバックアップの概要	30
2010/2013/2016/2019 でのデータベースレベルバックアップの前提条件	31
SharePoint 2010/2013/2016/2019 でフルバックアップを実行する方法	32
2010/2013/2016/2019 でのバックアップに関する考慮事項	33
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のバックアップ オプション ダイアログボックス	34
エージェント バックアップ オプション	37
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 でのデータベースレベルのバックアップ	40
第4章: SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムのリストア	43
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストアの概要	44
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 でのデータベースレベルリストアセット	45
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストア ローカル オプション ダイアログボックス	46
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベースレベルリストア オプション ダイアログボックス	47
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストア環境設定	49
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベースレベルリストア前提条件の SharePoint Server リストア環境設定	51
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 の SharePoint Server リストア環境設定のデータベースレベルリストアの実行	52
SharePoint 2010/2013/2016/2019 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログボックス	55
SharePoint 2010/2013/2016/2019 Agent リストア環境設定ダイアログボックス	58

ドキュメント レベルリストアのデスティネーション フォルダ	60
SharePoint 2010/2013/2016/2019 で元の場所 へのドキュメント レベルリストアを 実行	61
SharePoint 2010/2013/2016/2019 での別の場所 へのドキュメント レベルリストアの 実行	63
第5章: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能	67
Microsoft SharePoint Server 2013/2016 の機能	68
Microsoft SharePoint 2013/2016 データ	69
Microsoft SharePoint Server 2010 の機能	72
Microsoft SharePoint 2010 データ	73
第6章: 惨事復旧	77
SharePoint 2010/2013/2016/2019 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧 の実行方法	78
第7章: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定	79
Microsoft SQL 認証の種類	80
認証要件	81
Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更	82
第8章: トラブルシューティング	83
AE9972	84
サイト コレクションを元の場所 へリストアできない	85
第9章: 用語集	87
データベースレベルのバックアップ	88
データベースレベルのリストア	89
ドキュメント レベルのリストア	90

第1章: エージェントの紹介

Arcserve Backupは、アプリケーション、データベース、分散サーバおよびファイルシステム向けの包括的かつ分散的なストレージソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーククライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

Arcserve Backup が提供するエージェントには、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server があります。このエージェントを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 および Microsoft SharePoint Foundation 2010 のデータをバックアップおよびリストアできます。

SharePoint 環境は複雑で多くのマシンに分散されますが、エージェントは、すべての SharePoint データを Arcserve Backup サーバにあるインターフェースのシングルノードに統合することで、SharePoint インストールの完全な保護を提供します。SharePoint のコンテンツは、SharePoint 分散データベース、シングルサインオン (SSO)、検索インデックスで構成されます。エージェントを使用すると、Arcserve Backup の機能を使って、ネットワークにあるすべての SharePoint データのバックアップとリストアを簡単に管理できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

エージェントの特徴	10
Microsoft SharePoint Server のサポート	12
SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作	13

エージェントの特徴

Agent for Microsoft SharePoint Server は、バックアップおよびリストアの処理を容易にする多くの機能を提供します。Microsoft SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 および Microsoft SharePoint Foundation 2010/2013/2016/2019 のインストールのバックアップおよびリストア機能を提供します。

詳細については、「[SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 の機能](#)」を参照してください。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 の機能

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 に対しては、エージェントによって以下の機能がサポートされます。

- SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 ファームとファーム コンポーネントをバックアップおよびリストアします。
注 :さまざまなファーム コンポーネントの詳細については、「[Microsoft SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 の機能](#)」を参照してください。
- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージ デバイスへのバックアップをサポートします。
- 環境設定のみをバックアップするオプション、および内容と環境設定をバックアップするオプションをサポートします。
- 環境設定のみをリストアするオプション、および内容と環境設定をリストアするオプションをサポートします。
- フェールオーバーデータベース サーバ用のデータベース レベル バックアップおよびデータベース レベルおよびドキュメント レベル リストアをサポートします。
- ドキュメント レベルまたは詳細レベルでのリストアをサポートします。

Microsoft SharePoint Server のサポート

以下の表に、Agent for Microsoft SharePoint Server が動作する Microsoft SharePoint Server のバージョンおよびサポートする Windows オペレーティングシステムを示します。

	Microsoft SharePoint Server 2010	Microsoft Sharepoint Server 2013	Microsoft Sharepoint Server 2016	Microsoft Sharepoint Server 2019
Windows Server 2003 (x86)	x	x	x	x
Windows Server 2003 (x64)	x	x	x	x
Windows Server 2008 (x86)	x	x	x	x
Windows Server 2008 (x64)	○	x	x	x
Windows Server 2008 R2	○	○	x	x
Windows Server 2012	x	○	x	x
Windows Server 2012 R2	x	○	x	x
Windows Server 2016 Standard または Datacenter	x	x	○	○
Windows Server 2019 Standard または Datacenter	x	x	○	○

SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作

Arcserve Backup と Agent for Microsoft SharePoint Server は連携して SharePoint Server データをバックアップおよびリストアします。Arcserve Backup がデータをバックアップする場合、サーバはエージェントに接続し、リクエストを送信します。エージェントは SharePoint Server からデータを取得し、ディスク上のダンプフォルダにデータをエクスポートしてから、Arcserve Backup にデータを送信します。ここでデータがメディアにバックアップされます。リストアの際もエージェントは同様に動作し、バックアップされたデータを Arcserve Backup からサーバに転送する処理をサポートします。

第2章: エージェントのインストール

このセクションでは、SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムに Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールして設定する方法について説明します。このセクションの説明は、読者が Microsoft SharePoint Server ファームの一般的な特徴と要件について熟知していることを前提としています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

環境に関する考慮事項	16
インストールの前提条件	17
エージェントのインストール	19

環境に関する考慮事項

SharePoint 環境は複雑になる可能性があり、複数のマシンにわたって分散する場合があります。サーバファームの設定は、Microsoft によってサポートされています。例として、分散 SharePoint 環境には、以下のコンポーネントを含めることができます。

- 1 つ以上の Web フロントエンド サーバ
- Windows SharePoint Service Help Search サービスが有効になったアプリケーションサーバ(複数可)。
- Office SharePoint Server Search サービスが有効になった Indexer サーバ(複数可)。
- SharePoint Server ファームによって使用されるデータベースサーバ(複数可)。

インストールの前提条件

SharePoint Server システムにエージェントをインストールする前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールするシステムが、インストールに必要な最小要件を満たしていることを確認します。要件については、[Readme](#) ファイルを参照してください。
- ソフトウェアをインストールするコンピュータに対するシステム管理者 (root ユーザ) 権限または適切な権限を持っていることを確認します。
- Agent for Microsoft SharePoint Server 環境設定ウィザードに入力するユーザ名には、SharePoint Server ファーム内の全マシンへの管理者権限を持っている必要があります。
- Microsoft SharePoint Server ファームの管理者グループに属するアカウントを確認します。
- Microsoft SharePoint Server 製品がインストールされていることを確認します。
- Agent for Microsoft SharePoint Server は、ファームが元々作成されたのと同じシステムで、Central Administration が実行されているシステムにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップとリストアのジョブが失敗する可能性があります。

注：保護している Microsoft SharePoint サーバに Arcserve Backup Agent for Open Files をインストールする必要はありません。Agent for Open Files は、開いているファイルまたはアクティブなアプリケーションによって使用中であるファイルを保護する場合に役立ちます。Agent for Microsoft SharePoint Server は、SharePoint サーバの保護に特化したアプリケーション固有のエージェントのため、Agent for Open Files のすべての機能を網羅する完全なソリューションが提供されます。

Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項

エージェントをインストールする際は、以下の点を考慮してください。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールする前に、Microsoft SharePoint Server をインストールする必要があります。このエージェントは、Microsoft Office SharePoint Server がサポートされているすべてのオペレーティングシステムでサポートされています。
- Arcserve Backup サーバは、SharePoint 環境で、名前を使ってすべてのマシンに ping できる必要があります。SharePoint 環境で DNS (ドメイン ネーム システム) を使用していない場合は、SharePoint 環境にあるすべてのマシンを Arcserve Backup サーバの hosts ファイルに追加する必要があります。
- Microsoft SQL Server Windows サービスをドメイン アカウントまたはローカル システム アカウントとして実行する必要があります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server は、ファームが元々作成されたマシンで、Windows SharePoint Service Administration サービスが実行されているのと同じマシンにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップジョブまたはリストアジョブが失敗する可能性があります。
- Arcserve Backup サーバとエージェント サーバが異なるタイムゾーンにある場合、ジョブが正常に完了しない可能性があります。ジョブが確実に完了するようになるには、エージェント サーバと Arcserve Backup サーバとの間でタイムゾーンの同期をとる必要があります。
- Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server をこのリリースにアップグレードする際にサーバファーム インストールを選択した場合は、ファームの作成時に使用したのと同じファーム管理者を使用する必要があります。別のファーム管理者を使用する場合は、Agent for Microsoft SharePoint Server の環境設定を起動して、環境設定をもう一度行う必要があります。この制限事項は、サーバファーム インストール(「完全」および「Web フロントエンド」)にのみ影響します。SharePoint の単一サーバ(スタンドアロン) インストールには影響しません。

エージェントのインストール

Agent for Microsoft SharePoint Server は、Arcserve Backup のシステムコンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。

Arcserve Backup のインストール方法の詳細については、「[実装ガイド](#)」を参照してください。

Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログボックス

Agent ダイアログ ボックスを開き、以下の手順を使用してオプションを設定できます。

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定]ダイアログ ボックスを開く方法

1. Windows の [スタート]メニューから、[すべてのプログラム]- [Arcserve]- [Arcserve Backup]- [Backup Agent 管理]を選択します。

Arcserve [Backup Agent 管理]ダイアログ ボックスが開きます。

2. ドロップダウン リスト から [Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server]を選択して、[環境設定]をクリックします。

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。デフォルトでは、[DB レベル環境設定]タブが表示されます。

Agent for Microsoft SharePoint データベースレベル環境設定タブ

Agent for Microsoft SharePoint の [データベースレベル環境設定] タブでは、エージェントがインストールされている共有フォルダに Microsoft SharePoint データを格納するオプションを指定できます。

[データベースレベル環境設定] タブには次のオプションが含まれます。

デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所

[デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所] には、以下のオプションがあります。

注 : リストアジョブをサブミットする場合にも同じ場所が使用されます。

- **Arcserve Backup サーバ** - SharePoint データを、テープに保存する前に Arcserve サーバの共有フォルダにエクスポートします。
- **Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server (ローカルマシン)** - SharePoint データを、エージェントがインストールされているローカルコンピュータ上の共有フォルダにエクスポートします。エクスポートされたデータは、ネットワーク経由でテープに保存されます。
- **その他 (NAS、ファイル) のサーバ名** - SharePoint データを、NAS デバイスまたはパブリックの共有フォルダにエクスポートします。このオプションを選択する場合は、サーバ名を指定する必要があります。

注 : IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ/リストア ダンプのパス

[バックアップ/リストア ダンプのパス]では、以下のとおり共有名と物理パスを指定します。

- **共有名** - バックアップ/リストア ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合は、データのバックアップ先の共有フォルダを指定します。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注 : 名前には、特殊文字「\$」を最後に含むことはできません。

- **物理パス** - バックアップ/リストア ダンプの場所として [Arcserve Backup サーバ]または [Arcserve Backup Agent for SharePoint Server]を選択した場合は、データのバックアップ先のパスを指定します。

バックアップ/リストア アカウント認証情報

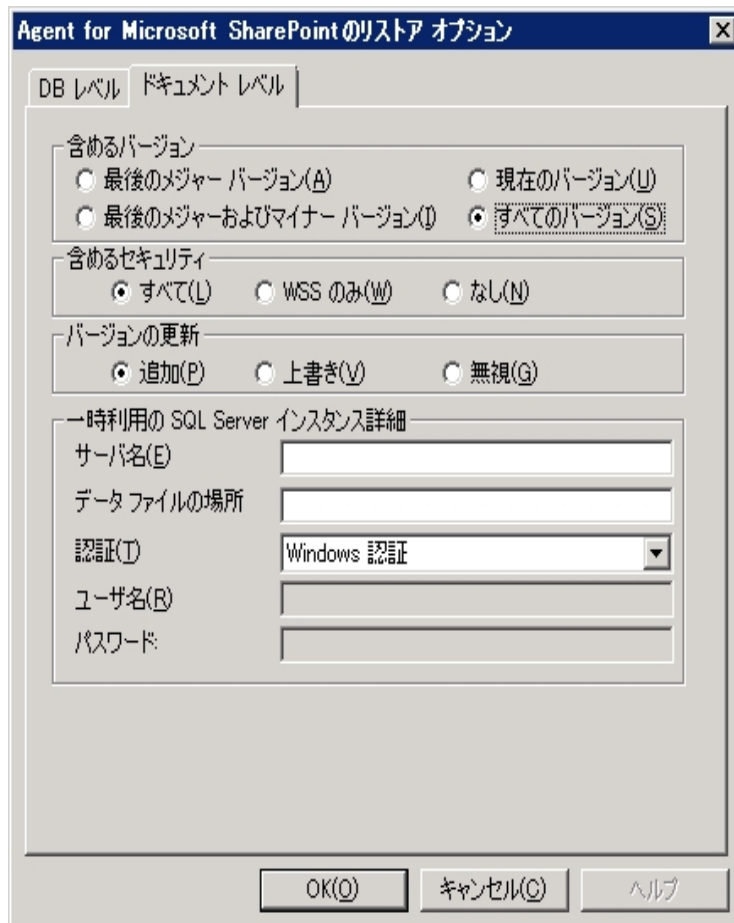
COM+ コンポーネントをインストールするには、[バックアップ/リストア アカウント認証情報]でユーザ名およびパスワードを指定します。

注 : COM+ コンポーネントがインストールされていない場合、[認証情報をリセットする]オプションが有効になっています。これらのコンポーネントをインストールするには、ユーザの詳細を入力する必要があります。

- **ユーザ名** - ファーム管理者のユーザ情報を定義します。
- **パスワード** - ファーム管理者のパスワードを定義します。

Agent for Microsoft SharePoint ドキュメント レベル環境設定タブ

さらに細かいレベルでリストアを実行するには、Agent for Microsoft SharePoint の [ドキュメント レベル環境設定] タブでオプションを設定する必要があります。



[ドキュメント レベル環境設定] タブには以下のオプションが含まれます。

ドキュメント レベルオプションを有効にする

ドキュメント レベルのリストア処理を有効にします。[ドキュメント レベルオプションを有効にする] オプションはデフォルトでオンになっています。

注 :ドキュメント レベルのオブジェクトのリストアを実行するには、バックアップ オプションのダイアログボックスで [エージェントのデフォルト設定を使用する] オプションを選択し、さらにこの [ドキュメント レベルオプションを有効にする] オプションを選択する必要があります。

含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャーバージョン - 最後のメジャーバージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナーバージョン - 最後のメジャーおよびマイナーバージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン(デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティグループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべての(デフォルト) - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナー」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。
また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。
- WSS のみ - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナー」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。
DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。
- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加(デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
- データファイルの場所 - この場所は、データベースバックアップダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベースファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

注：SQL Server インスタンスには、データ ファイルの場所 へのアクセス権がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証(デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注：一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベース サーバのバージョンと同じである必要があります。

SharePoint システムでのエージェントの設定

エージェントをインストールしたら、そのエージェントによって以下の COM+ コンポーネントが1 つ以上インストールされます(検出される SharePoint Server のバージョンに基づく)。

- SharePoint Server 2010: SPS014
- SharePoint Server 2013: SPS015
- Sharepoint Server 2016:SPS016
- Sharepoint Server 2019:SPS019

これらのコンポーネントは、SharePoint Server と連携してデータをバックアップおよびリストアします。

注 :エージェントを設定する際は、ページファイルの使用サイズが物理メモリを超えていないことを確認する必要があります。超えている場合、設定に失敗する場合があります。

以下の手順に従います。

1. Windows の [スタート]メニューから、[すべてのプログラム]、[Arcserve]、[Arcserve Backup]を選択し、[Backup Agent 管理]をクリックして、[Arcserve Backup Agent 管理]ダイアログボックスを開きます。
2. ドロップダウンリストから、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を選択し、[環境設定]をクリックして [Agent for Microsoft SharePoint 環境設定]ダイアログボックスを開きます。デフォルトでは、[DB レベル環境設定]タブが表示されます。
3. [DB レベル環境設定]タブでデータベースレベルのオプションを選択し、エージェントのデータベースレベルのバックアップおよびリストア処理を設定します。データベースレベルのオプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint データベースレベル環境設定タブ](#)」を参照してください。

これでデータベースレベルの環境設定が完了しました。

4. [ドキュメント レベル環境設定]タブを選択して、ドキュメント レベルの環境設定オプションを表示します。
5. タブ内のオプションを選択して、ドキュメント レベルのリストアについてエージェントを設定します。ドキュメント レベルのエージェント オプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint Server ドキュメント レベル環境設定タブ](#)」を参照してください。

これでドキュメント レベルの環境設定が完了しました。

6. [OK]をクリックして、ドキュメント レベルおよびデータベースレベルの環境設定を完了します。

第3章: SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムのバックアップ

この章では、SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

SharePoint 2010/2013/2016/2019 でのバックアップの概要	30
2010/2013/2016/2019 でのデータベース レベル バックアップの前提条件	31
SharePoint 2010/2013/2016/2019 でフル バックアップを実行する方法	32
2010/2013/2016/2019 でのバックアップに関する考慮事項	33
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス	34
エージェント バックアップ オプション	37
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 でのデータベース レベルのバックアップ	40

SharePoint 2010/2013/2016/2019 でのバックアップの概要

データベースレベルのバックアップは、SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 データベースファイルを保護します。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベースレベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

2010/2013/2016/2019 でのデータベースレベルバックアップの前提条件

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 上でデータベースレベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスが、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中である。
- Microsoft SQL Server が実行中である。

SharePoint 2010/2013/2016/2019 でフルバックアップを実行する方法

データベースのフルバックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフルバックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010/2013/2016/2019 ファームまたは Windows SharePoint ファームのトポロジに対して以下のような変更を行った場合は必ずデータベースのフルバックアップをすぐに実行するようにします。

- 通常の Web アプリケーション または SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの新しい Web アプリケーションおよび新しいデータベースの追加。
- フルバックアップジョブの実行中のキャンセル。
- バックアップからのデータベースのリストア。

注 Arcserve ファームトポロジを更新した場合、Windows サービスの SharePoint Agent Service を必ず再起動してください。

2010/2013/2016/2019 でのバックアップに関する考慮事項

バックアップを正常に実行するには、以下の点を考慮してください。

- コンポーネント A のフルバックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフルバックアップを実行した場合、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。つまり、ファームレベルのフルバックアップのすぐ後にファームレベルの差分バックアップを実行することはできますが、ファームレベルのフルバックアップを行ってから、Web アプリケーションのフルバックアップを実行し、次にファームの差分バックアップを実行することはできません。この場合は、差分ジョブは失敗してエラーメッセージが表示されます。
- SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 と同時に Microsoft SQL Server ツール、Central Administration Web サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。たとえば、これらのツールを使用してフルバックアップを実行する場合は、差分バックアップジョブをリストアできないことがあります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server と、Client Agent や Agent for SQL Server などのその他のエージェントを使用して SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 を保護する場合は、SharePoint 2010/2013/2016/2019 のデータが二回以上バックアップされることがあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010/2013/2016/2019 データベースおよび Client Agent および Agent for SQL Server バックアップジョブからのファイルを除外する必要があります。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 は以下をサポートしません。

- [グローバルオプション] の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- 単一のインスタンスを使用したバックアップジョブのマルチプレキシングのマルチストリーミング。
- 異なる Arcserve Backup ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベースレベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベースレベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスが開きます。

Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション

デフォルトのバックアップ ダンプ場所

Microsoft SharePoint Server が最初のバックアップ ダンプの保存先に使用するデフォルト ディスク ロケーションを選択します。

☒ エージェントのデフォルト設定を使用する(U)

☐ CA ARCserve Backup サーバ(A)

☐ CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint(S)

☐ その他 (NAS、ファイル) のサーバ名(I):

バックアップ ダンプ パス

共有名(N)

物理パス(P)

環境設定のバックアップ

☐ 環境設定のみバックアップする(B)

☒ 内容と環境設定をバックアップする(K)

☒ バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する(R)

☒ ドキュメント レベル リストアを有効にする(E)

バックアップ方式

☒ グローバルまたはローテーション設定を使用する(G)

☐ フル(F)

☐ 差分(D)

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスには、以下のオプションが含まれます。

デフォルトのバックアップ ダンプの場所

Arcserve Backup は、バックアップ ダンプの場所に基づいて、テープに保存する前にデータを一時的に保存する場所を決定します。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

- [エージェントのデフォルト設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- [Arcserve Backup サーバ] -- SharePoint データを Arcserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。
- Arcserve [Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにエクスポートします。

注 : IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注 : 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として Arcserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

環境設定のバックアップ

環境設定を選択する必要があります。

- [環境設定のみバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の環境設定のみがバックアップされます。
- [内容と環境設定をバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の内容および環境設定の両方がバックアップされます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

バックアップ後にダンプデータをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

以下の動作に注意してください。

- 保持されるデータは、通常 前回 のフル バックアップまたは最新 のフル バックアップと、前回 の差分 バックアップのダンプ データになります。
- ダンプ場所が変更されない場合 (保持) : フル バックアップを実行すると、エージェントは前 のフル バックアップ セッションおよび増分 バックアップ セッションを削除し、前回 の最新フル バックアップ セッションを保持します。差分 バックアップを実行すると、エージェントは前 の差分 バックアップを削除し、最新の差分 バックアップを保持します。
- ダンプ場所が変更された場合 (保持されない) : エージェントは前 のダンプ場所からデータを削除しません。
- このオプションを指定した場合、エージェントは、ダンプ キャッシュからデータをリストアします。パスワードを指定せずに、パスワード暗号化が含まれるデータをリストアできます。

ドキュメント レベルリストアを有効にする

ドキュメント レベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

バックアップ方式

バックアップ ジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。バックアップ方式によって、Arcserve Backupでデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローテーション設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール] タブでバックアップ方式を選択してください。
- [フル] -- データベース全体をバックアップし、後続の増分 バックアップまたは差分 バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。
注 : サービス パックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフル バックアップを実行してください。
- [差分 バックアップ] -- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

注 : [フル] または [差分] のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール] タブの [バックアップ方式] オプションは適用されません。Microsoft SharePoint 2010/2013/2016/2019 は、[増分 バックアップ] 方式をサポートしていません。[スケジュール] タブで [増分 バックアップ] を選択する場合は、[差分 バックアップ] と考えられます。

エージェント バックアップ オプション

以下のセクションでは、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベースレベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベースレベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスが開きます。

[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスには、以下のオプションが含まれます。

デフォルトのバックアップ ダンプの場所

バックアップ ダンプの場所によって、Arcserve Backup で、データをテープに保存する前に一時的に保存する場所が指定されます。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択します。

- [エージェントのデフォルト設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- Arcserve Backup サーバ - SharePoint データを Arcserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。
- [Arcserve Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにエクスポートします。

注：IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定します。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注：共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として Arcserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

環境設定のバックアップ

環境設定を選択します。

- [環境設定のみバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の環境設定のみがバックアップされます。
- [内容と環境設定をバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の内容および環境設定の両方がバックアップされます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

バックアップ後にダンプデータをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

以下の動作に注意してください。

- 保持されるデータは、通常前回のフルバックアップまたは最新のフルバックアップと、前回の差分バックアップのダンプデータになります。
- ダンプ場所が変更されない場合 (保持) : フルバックアップを実行すると、エージェントは前のフルバックアップセッションおよび増分バックアップセッションを削除し、前回の最新フルバックアップセッションを保持します。差分バックアップを実行すると、エージェントは前の差分バックアップを削除し、最新の差分バックアップを保持します。
- ダンプ場所が変更された場合 (保持されない) : エージェントは前のダンプ場所からデータを削除しません。
- このオプションを指定した場合、エージェントは、ダンプキャッシュからデータをリストアします。パスワードを指定せずに、パスワード暗号化が含まれるデータをリストアできます。

ドキュメント レベルリストアを有効にする

ドキュメント レベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

バックアップ方式

バックアップジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。バックアップ方式によって、Arcserve Backup でデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローテーション設定を使用する]-- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール]タブでバックアップ方式を選択してください。

- [フル]-- データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。

注：サービスパックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフルバックアップを実行してください。

- [差分バックアップ]-- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

注：[フル]または[差分]のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]オプションは適用されません。Microsoft SharePoint 2010/2013 は、[増分バックアップ]方式をサポートしていません。[スケジュール]タブで[増分バックアップ]を選択する場合は、[差分バックアップ]と考えられます。

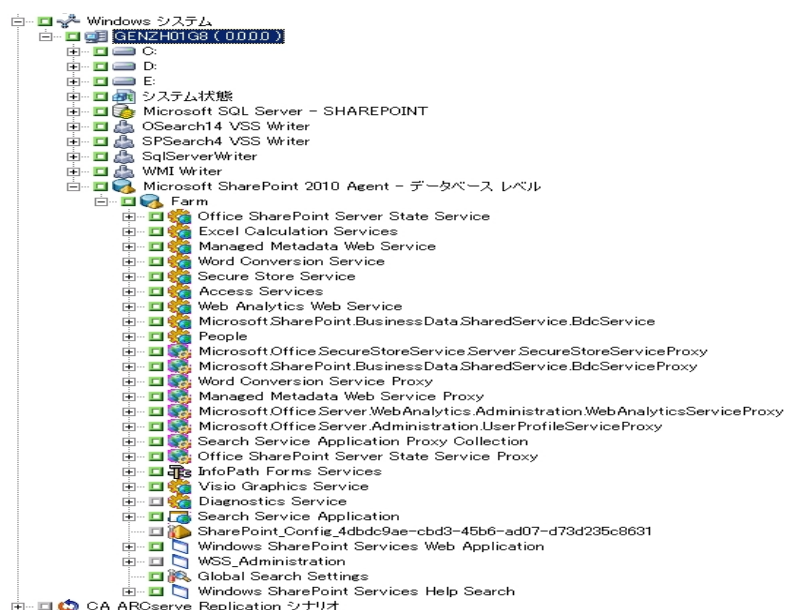
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 でのデータベースレベルのバックアップ

Arcserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムでデータベースレベルのバックアップを実行します。

以下の手順に従います。

1. Arcserve Backup Home Pageで、[クイック スタート]メニューから [バックアップ]を選択します。

バックアップ マネージャ ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ]ウィンドウで、バックアップする [データベース レベル]オブジェクトを選択します(Microsoft SharePoint 2010/2013/2016/2019 - データベース レベル) 。ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。
3. このジョブがある [ファーム]オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択して、使用するバックアップ方式を選択して [OK]をクリックします。

注 : エージェントの最初の実行中にフルバックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション]タブをクリックし、バックアップ先を選択します。
5. [スケジュール]タブをクリックします。

カスタムスケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。ローテーション スキーマを使用する場合は、[ローテーション スキーマ]オプションを選択し、

スキーマを設定します。ジョブのスケジュールおよびローテーションスキームの詳細については、[オンライン ヘルプ](#)または「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。

[セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

7. [セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが開いたら、各オブジェクトに対して正しいユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。ユーザ名やパスワードを入力または変更する場合は、[セキュリティ] ボタンをクリックして変更を行い、[OK] ボタンをクリックします。

8. [OK] をクリックします。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが表示されます。

9. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスから、[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。

10. ジョブの説明を入力します。

複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブセッションの開始順序を設定するには、[ソース優先度] をクリックします。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、[一番下へ]の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。優先順位付けが終わったら、[OK] をクリックします。

11. [OK] をクリックします。

バックアップ ジョブがサブミットされます。

第4章: SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムのリストア

この章では、SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストアの概要	44
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 でのデータベース レベル リストア セット	45
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス	46
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス	47
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベース レベル リストア 前提条件の SharePoint Server リストア 環境設定	51
SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 の SharePoint Server リストア 環境設定の データベース レベル リストア の実行	52
SharePoint 2010/2013/2016/2019 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス	55
SharePoint 2010/2013/2016/2019 で元の場所 へのドキュメント レベル リストア を実行	61
SharePoint 2010/2013/2016/2019 での別の場所 へのドキュメント レベル リストア の実行	63

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストアの概要

このセクションでは、リストアを実行する前に満たす必要がある前提条件、リストア用に提供されている Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server の機能、SharePoint 2010/2013/2016/2019 システムでデータベースレベルおよびドキュメントレベルのリストアを実行する手順に関する情報について説明します。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 でのデータベースレベルリストアセット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。これらのセッションを「リストアセット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フルバックアップ方式のみを使用した場合、リストアセットには、このフルセッションのみが含まれます。
- フルバックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストアセットには、フルバックアップセッションと1つの差分バックアップセッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップシナリオでは、リストアセットはフルと差分 1、フルと差分 2、フルと差分 3、またはフルと差分 4 となります。

フル	差分 1	差分 2	差分 3	差分 4
----	------	------	------	------

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップセッションのみを選択する必要があります。Arcserve Backup では、前のフルバックアップを自動的に検索してから、フルバックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス

[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション]ダイアログ ボックス
(2010/2013/2016/2019) には、データベース レベルのリストア オプションとドキュメン
ト レベルのリストア オプションが含まれています。

詳細情報:

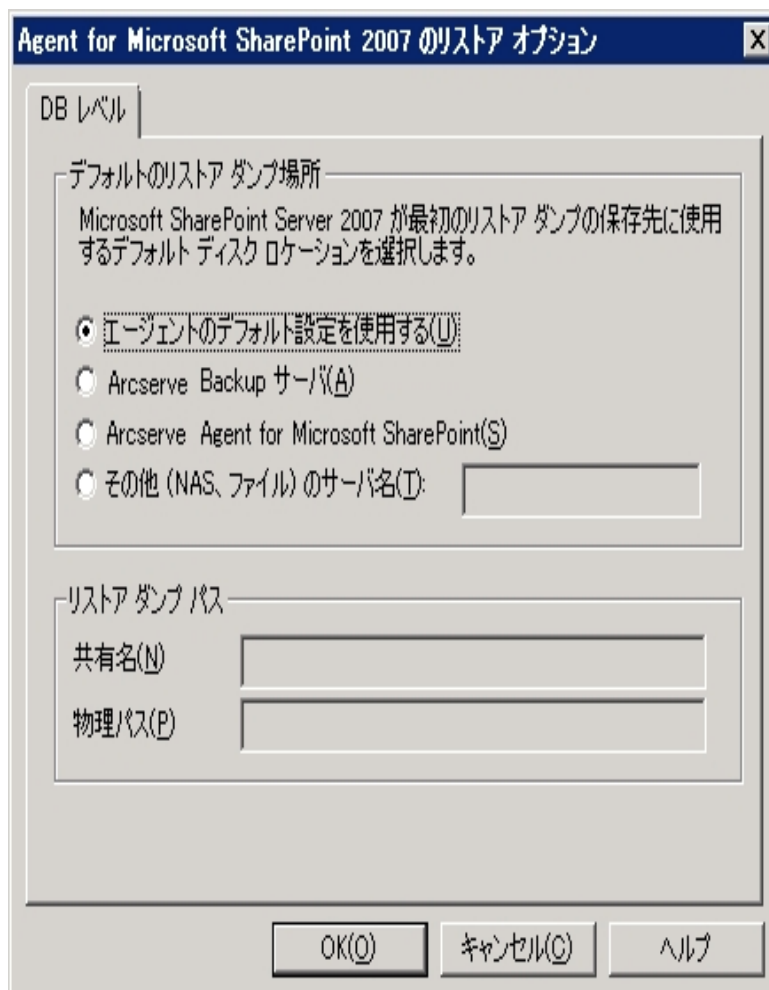
[SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベース レベル リストア オプション
ダイアログ ボックス](#)

[SharePoint 2010/2013/2016/2019 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイア
ログ ボックス](#)

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベースレベルリストア オプション ダイアログ ボックス

リストア ジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストア オプションを指定できます。

データベースレベルのリストア オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。



[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション]ダイアログ ボックスには以下のオプションがあります。

デフォルトのリストア ダンプの場所

データをリストアする前に、リストア ダンプの場所を選択する必要があります。リストア の場所 から、Arcserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

注 : リストア オプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定] オプションを使用して設定した場所は適用されません。以下のリストア ダンプの場所から選択できます。

- エージェントのデフォルト設定を使用する - デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択した場所を利用できます。
- Arcserve Backup サーバ - SharePoint データを Arcserve Backup の共有フォルダにリストアします。
- Arcserve Agent for Microsoft SharePoint Server - SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにリストアします。
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにリストアします。

注 : IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

リストア環境設定

- 環境設定のみリストアする - データベースレベルのリストアの実行中に環境設定をリストアします。
- 内容と環境設定をリストアする - データベースレベルのリストアの実行中に内容と環境設定をリストアします。環境設定オプションの詳細については、「[SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストア環境設定](#)」を参照してください。

注 : 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- 物理パス - リストア ダンプの場所として Arcserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、「[SharePoint システムでのエージェントの設定](#)」を参照してください。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のリストア環境設定

リストア環境設定を指定するには、リストア マネージャの [サブミット] ボタンを使用します。

[SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

リストアの種類

リストア後に同じリストア名と場所にすることもでき、別のリストア名と場所にすることもできます。

ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービス プロバイダにログインできるように設定できます。この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

名前と場所

バックアップ ジョブがリストアされた後に新しい名 前または場所になるコンポーネントが1 つ以上あるように、名 前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネント タイプ	環境設定項目	コメント
データベース	新しいデータベース サーバ名	データベースをリストアする SQL データベース サーバです。これはエイリアス名 の場合もあります。
	新しいディレクトリ 名	SQL データベース ファイルを保存する新しい物理パスです。
	新しいデータベース 名	リストア後の新しいデータベース名 です。
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有 検索 インデックス	新しいサーバ名	Office 検索 インデックス サービスが実行されているコンピュータ名 です。
	新しいディレクトリ 名	インデックス ファイルが保存されている新しい物理パスです。
Web Application	新しい Web アプリケーションの URL	Web アプリケーションの Web サイトの URL
	新しい Web アプリケーション名	IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名前です。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベースレベルリストア前提条件の SharePoint Server リストア環境設定

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 上でデータベースレベルのリストアを実行する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。
- 検索 サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索 サービスが実行中であることを確認します。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに一意の名前が付いていることを確認します。2 つの Web アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用している場合、リストアすると、2 番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイムゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロン インストールでは、リストアジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの Administrators グループに追加してください。リストアジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
 - ◆ NT AUTHORITY\LOCAL SERVICE
 - ◆ NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE

ローカルの Administrators グループにアカウントを追加する方法

1. [コントロールパネル]-[管理ツール]-[コンピュータの管理]-[システムツール]-[ローカルユーザーとグループ]-[グループ]-[Administrators]を選択します。
2. [追加]をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」および「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. [OK]をクリックします。

SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 の SharePoint Server リストア環境設定のデータベースレ ベルリストアの実行

Arcserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベースレベルのデータ リストアを実行します。

重要 :コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の Web アプリケーションで使用されていないことを確認してください。[セッション単位] 方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が 2 つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストアジョブは「成功」と表示されますが、2 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve Backup ホーム画面の [クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。

[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。

2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。

注 :データベースレベルのリストアでは [ツリー単位] と [セッション単位] の両方がサポートされています。

[Microsoft SharePoint 2010/2013/2016/2019 Agent - データベース レベル] ノードに複数のファーム オブジェクトがあることがあります。

シングル バックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。たとえば、Web アプリケーションと共有 サービスを選択する場合は、2 つのファーム オブジェクトが生成されます。1 つのファーム オブジェクトには Web アプリケーションがあり、もう 1 つのファーム オブジェクトには共有 サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回 バックアップする場合は、このコンポーネントの最新 バックアップを表示するファーム オブジェクトのみが表示されます。

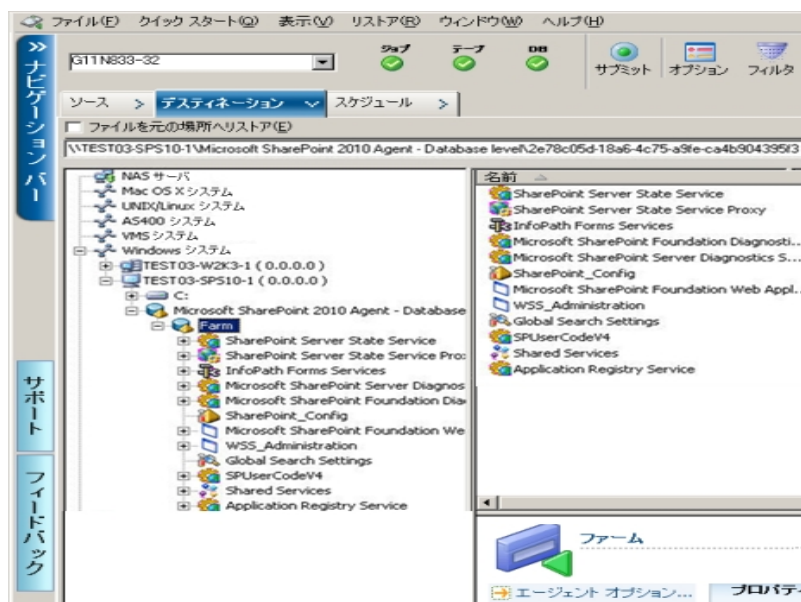
3. ディレクトリ ツリーから、[Windows システム] オブジェクトを展開して、バックアップしたデータベースを含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。

4. リストアするバックアップが最新のバックアップでない場合は、リストアする復旧ポイント セッションを選択します。
5. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストアオプションを選択します。リストアオプションの詳細については、「[SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベースレベル リストアオプション ダイアログ ボックス](#)」を参照してください。
6. [デスティネーション] タブをクリックします。データベース オブジェクトは元の場所 (デフォルト)、または別の場所にリストアすることができます。

注：Windows SharePoint 2010/2013/2016/2019 を使用しており、すべてのファームを別のファームにリストアする場合、Microsoft SharePoint RC ビルドをバージョン 4747.1000 以降にアップグレードする必要があります。Microsoft の既知の問題によると、Web Analytics Service Application Reporting Database の新しいロケーションへのリストアは動作しません。リストアを実行する前に、そのデータベースの元の場所のディレクトリがデスティネーションファームに存在することを確認してください。

7. 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア]チェックボックスをオフにして、[Windows システム]オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2010/2013/2016/2019 - データベースレベル]オブジェクトを選択します。

注：別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。



8. ツールバーの[サブミット]をクリックします。[リストア環境設定]ダイアログボックスに必要な情報を入力します。

別の場所にリストアする場合、[セキュリティ]ダイアログボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

9. [セッション ユーザ名 およびパスワード]ダイアログボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。

注：ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。

<ドメイン>\<ユーザ名>

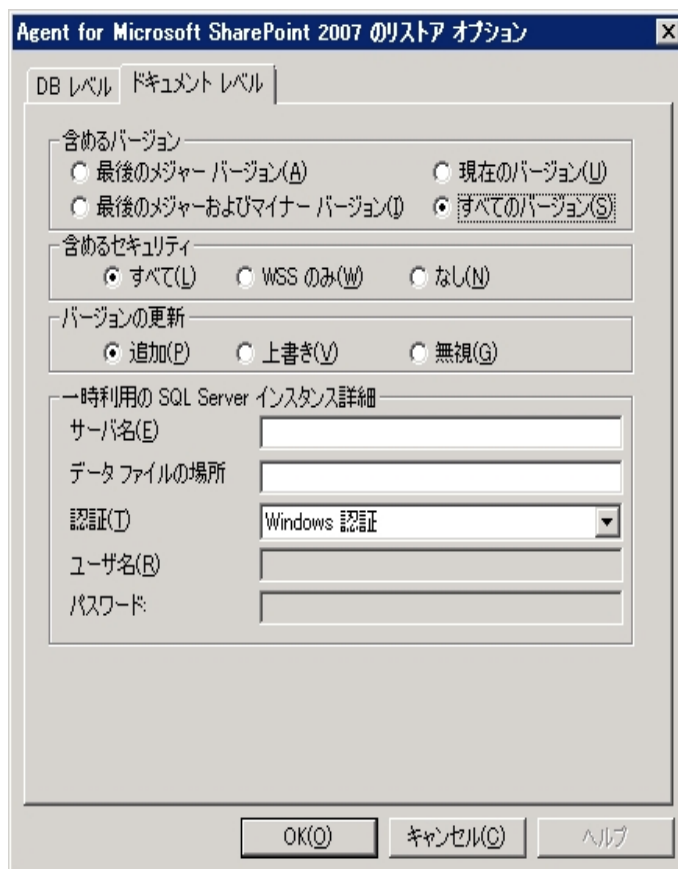
10. [OK]をクリックします。
11. [ジョブのサブミット]ダイアログボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
12. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。

重要：リストアの実行後、Internet Information Services (IIS) を再起動する必要があります。

SharePoint 2010/2013/2016/2019 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス

ドキュメント レベルのリストア ジョブを作成する場合、[ドキュメント レベル] タブを使用してリストア オプションを指定し、ジョブをカスタマイズすることができます。

ソースを選択し、[エージェント オプション] をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション] ダイアログ ボックスが開きます。[ドキュメント レベル] タブを選択し、リストア処理を実行するためのオプションを設定します。



SharePoint のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります。

含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャーバージョン - 最後のメジャーバージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナーバージョン - 最後のメジャーおよびマイナーバージョンのコンテンツを含めます。

- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン(デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティグループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべて(デフォルト) - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加(デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
- データファイルの場所 - この場所は、データベース バックアップ ダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベース ファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

注 : SQL Server インスタンスには、データファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証(デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注：一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベース サーバのバージョンと同じである必要があります。

SharePoint 2010/2013/2016/2019 Agent リストア環境設定ダイアログ ボックス

別の場所へのドキュメント レベルリストアを実行する際には、[SharePoint Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスを設定する必要があります。

リストア マネージャの [デスティネーション] タブを選択した後、ツールバーの [サブミット] をクリックします。[SharePoint Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。

SharePoint Agent リストア環境設定

以下のパラメータは、サイト コレクションのリストア時に必要である場合、空のサイト コレクションを作成するために使用されます。

サイト コレクション

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 80#SharePoint - 14704#sites/

デスティネーション サイトのフル URL:

所有者のログイン:

所有者の電子メール:

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

以下のパラメータの情報を入力する必要があります。

デスティネーション サイトのフル URL

サイト コレクションのリストア先のデスティネーションを指定します。

所有者ログイン

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

所有者電子メール

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。

デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

ドキュメント レベル リストアのデスティネーション フォルダ

コンテンツ データベース ノード 下のコンポーネント はすべてドキュメント レベル コンポーネント であると考えられます。これらは展開 可能です。リスト オプション デスティネーション にはまた、「別の場所 へのリスト オプション」機能を使用する際に、ドキュメント レベル コンポーネント が示されます。ソース タイプ に基づいて、適切なデスティネーション を選択 できます。詳細 については以下の表を参照 してください。

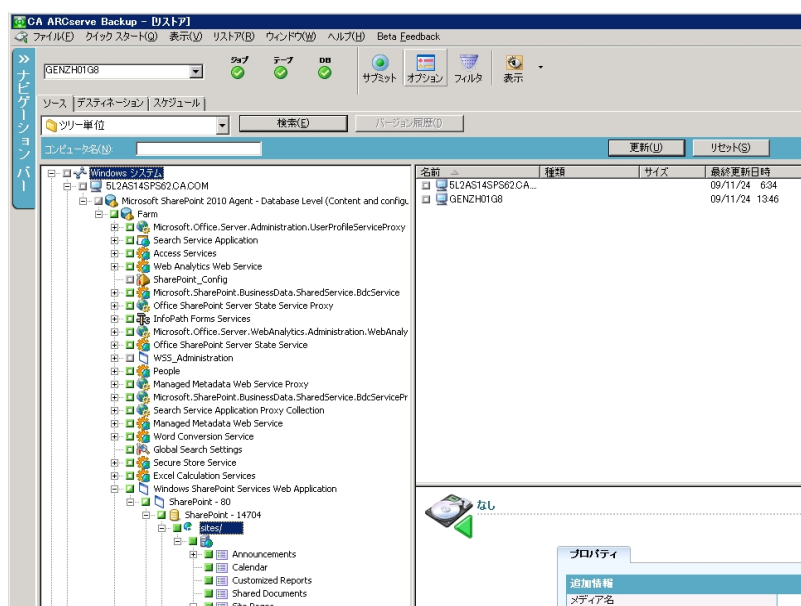
ソース	デスティネーション
サイト コレクション	Web Application
サイト	サイト コレクション
リスト	サイト
フォルダ	リスト、フォルダ
File	リスト、フォルダ
ファイルのバージョン	リスト、フォルダ

SharePoint 2010/2013/2016/2019 で元の場所へのドキュメント レベルリストアを実行

Arcserve Backup でリストア マネージャを使用し、ドキュメント レベルのデータ リストアを実行します。

サイト コレクションを元の場所へリストアする方法

1. Arcserve Backup ホームページで、[クイック スタート]メニューから [リストア]を選択します。
[リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、[ソース]タブのドロップダウン リストで [ツリー単位]を選択します。
3. ディレクトリツリーから、Windows システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下 のサイト コレクション、サイト、リスト およびリスト 項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各 ファーム オブジェクトを右 クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション]タブをクリックします。元の場所 (デフォルト の場所) へのデータベース オブジェクト のリストアを選択 できます。
6. ツールバーの [サブミット]をクリックします。
7. [セッション ユーザ名 およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名 とパスワードを確認 または変更 します。ユーザ名 やパスワードを変更する

には、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。

8. [OK] をクリックします。
9. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。
サイト コレクションがリストアされます。

SharePoint 2010/2013/2016/2019 での別の場所へのドキュメント レベルリストアの実行

Arcserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメント レベルのデータ リストアを実行します。

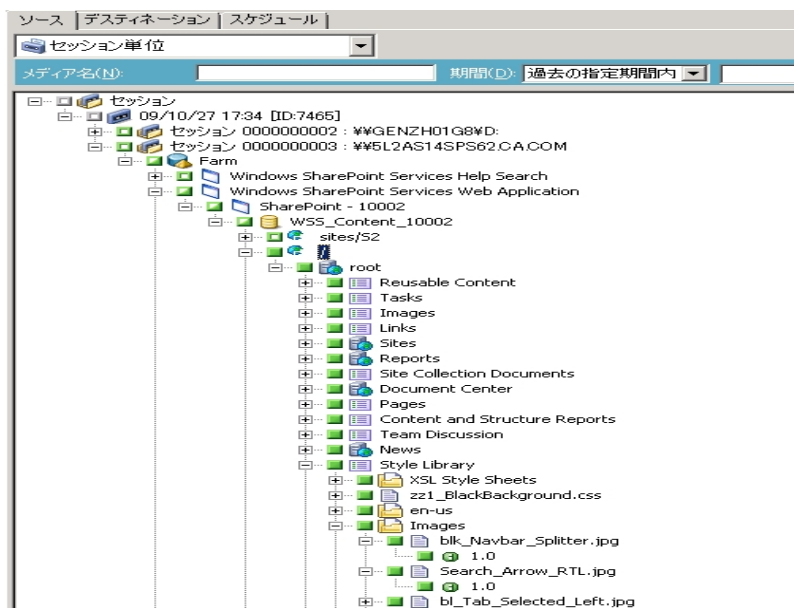
注 : SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のインストール後に [ファームの構成] を実行した場合は、ファームを別の場所にリストアするときに必ず以下の手順に従ってください。

- Windows の [スタート] メニューにある [SharePoint 製品構成ウィザード] を使用して、ファームを切断します。
- 以下のサービスが停止され、それらのステータスが無効になっていることを確認します。
 - SharePoint 2010 Tracing
 - SharePoint 2010 User Code Host
 - SharePoint Foundation Search V4
 - SharePoint Server Search 14
 - SharePoint 2010 VSS Writer
- Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、ファーム データベース サーバからデータベースをすべて削除します。

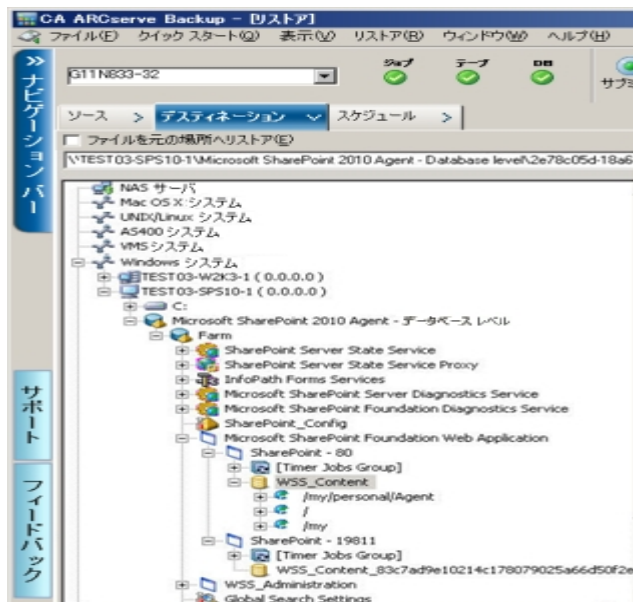
これで、リストア プロセスを実行するための手順に進むことができます。

サイト コレクションを別の場所にリストアする方法

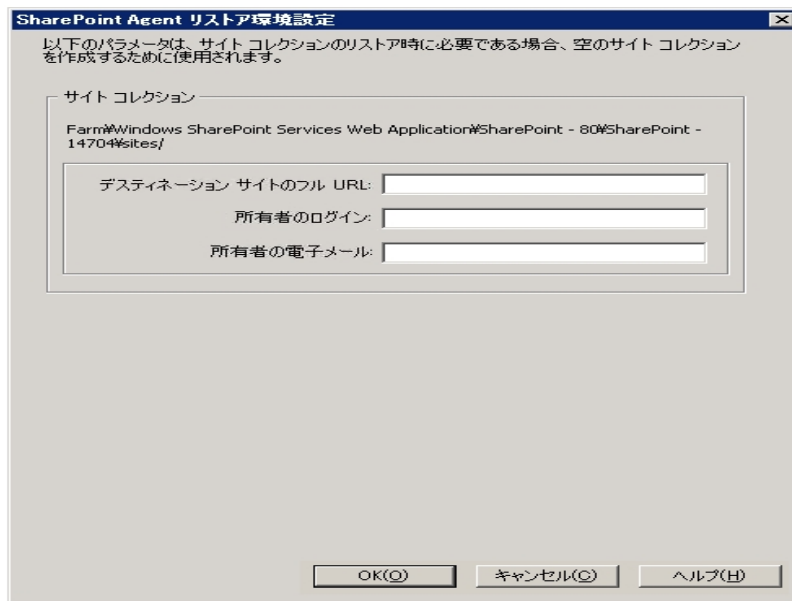
1. Arcserve Backup ホーム画面の [クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリ ツリーから、Windows システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下にサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各ファームオブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストアオプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックします。データベースオブジェクトを別の場所にリストアすることができます。別の場所の詳細については、「ドキュメント レベルリストアのデスティネーション フォルダ」を参照してください。



6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。
[SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。



7. [SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスに、ドキュメント レベルのリストアに必要な情報を入力します。
8. [セッション ユーザ名 およびパスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名 やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。
9. [OK] をクリックします。
10. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
11. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。
サイト コレクションがリストアされます。

第5章: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Microsoft SharePoint Server 2013/2016 の機能	68
Microsoft SharePoint 2013/2016 データ	69
Microsoft SharePoint Server 2010 の機能	72
Microsoft SharePoint 2010 データ	73

Microsoft SharePoint Server 2013/2016 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2013/2016 ファーム コンポーネントは以下のとおりです。

- Forms Service
- License to Feature Mappings
- State Service
- Web Application
- Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service
- SharePoint Server Search
- Access Services 2010 Web Service
- Secure Store サービス
- PowerPoint Conversion Service
- PerformancePoint Service
- Visio Graphics Service
- Managed Metadata
- App Management Service
- Excel Services Application Web Service アプリケーション
- Security Token Service アプリケーション
- Machine Translation Service
- Word Automation Services
- User Profile Service
- Business Data Connectivity Service
- Work Management Service
- Access Services Web Service
- Search Service

Microsoft SharePoint 2013/2016 データ

Agent for Microsoft SharePoint Server は、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- SharePoint Server ファーム
- FormsServiceBackup
- Forms Service
- DataConnectionFileCollection
- FormTemplateCollection
- ExemptUserAgentCollection
- License to Feature Mappings
- State Service
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Microsoft.Office.Server.Administration.StateServiceProxy
- Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service
- SharePoint Server Search
- Access Services 2010 Web Service アプリケーション
- Secure Store Service アプリケーション
- PowerPoint Conversion Service アプリケーション
- PerformancePoint Service アプリケーション
- Visio Graphics Service アプリケーション
- Managed Metadata Service
- App Management Service アプリケーション
- Excel Services Application Web Service アプリケーション
- Security Token Service アプリケーション
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimEncodingManager
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPSecurityTokenServiceManager
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimProviderManager
- Machine Translation Service
- Word Automation Services

- User Profile Service アプリケーション
- Business Data Connectivity Service アプリケーション
- Work Management Service アプリケーション
- Access Services Web Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション
- Microsoft.Office.Server.Search.Administration.SearchAdminDatabase
- Business Data Connectivity Service アプリケーション プロキシ
- PowerPoint Conversion Service アプリケーション プロキシ
- Machine Translation Service プロキシ
- Word Automation Services プロキシ
- Access Services Web Service アプリケーション プロキシ
- Access Services 2010 Web Service アプリケーション プロキシ
- Managed Metadata Service Connection
- PerformancePoint Service アプリケーション プロキシ
- Secure Store Service アプリケーション プロキシ
- Search Service アプリケーション プロキシ
- Work Management Service アプリケーション プロキシ
- App Management Service アプリケーション プロキシ
- User Profile Service アプリケーション プロキシ
- Visio Graphics Service アプリケーション プロキシ

注 : このガイドでは、後方互換性ドキュメント ライブラリ、および検索 インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

ファイルシステムのバックアップを使用して、フロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルおよびカスタマイズしたテンプレートを保護します。エージェントは、以下のファイルに対するサポートは提供しません。

- IIS(Internet Information Server) メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバールート ディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオン ソフトウェア

これらの情報は、Arcserve Backup Client Agent for Windows を使用して完全に保護できます。このエージェントの使用についての詳細は、「[Client Agent ユーザガイド](#)」を参照してください。

Microsoft SharePoint Server 2010 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 ファーム コンポーネントは以下のとおりです。

- Web Application
- Single Sign-On (SSO) database
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search settings
- Secure Store Service
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Web Analytics Web Service
- People
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Excel Calculation Service
- Word Conversion Service
- Access Service
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Managed Metadata Web Service プロキシ
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Word Conversion Service
- Search Service アプリケーション プロキシ コレクション
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Office SharePoint Server State Service プロキシ
- InfoPath Forms Services
- Visio Graphics Service
- Search Service アプリケーション

Microsoft SharePoint 2010 データ

Agent for Microsoft SharePoint Server は、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- SharePoint Server ファーム
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Single Sign-On データベース
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search Settings
- Secure Store Service
- Secure Store Service アプリケーション
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Managed Metadata Service アプリケーション
- Web Analytics Web Service
- Web Analytics Service アプリケーション
- Web Analytics Stager Database
- Web Analytics Warehouse Database
- People
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplication
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Business Data Catalog Service アプリケーション
- Excel Calculation Service
- Excel Services Web Service アプリケーション
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service アプリケーション
- Access Service
- Access Services アプリケーション
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplicationProxy

- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Secure Store Service アプリケーション プロキシ
- Managed Metadata Web Service プロキシ
- Managed Metadata Web Service アプリケーション プロキシ
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceApplicationProxy
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション プロキシ コレクション
- Search Service アプリケーション プロキシ
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Business Data Catalog Service アプリケーション プロキシ
- Office SharePoint Server State Service プロキシ
- State Service Application プロキシ
- InfoPath Forms Services
- InfoPath Forms Services Settings
- Data Connections
- Form Templates
- Exempt User Agents
- Visio Graphics Service
- Graphics Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション
- Administration Database
- Property Database
- Crawl Database

注 : このガイドでは、後方互換性ドキュメント ライブラリ、シングルサインオン(暗号化キー コンポーネントのみ) 、および検索 インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

ファイルシステムのバックアップを使用して、フロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルおよびカスタマイズしたテンプレートを保護する必要があります。エージェントは、以下のファイルに対するサポートは提供しません。

- IIS(Internet Information Server) メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバルート ディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオンソフトウェア

この情報は、Arcserve Backup Client Agent for Windows を使って完全に保護できます。[このエージェントの使用についての詳細は、「Client Agent ユーザガイド」を参照してください。](#)

第6章: 惨事復旧

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

SharePoint 2010/2013/2016/2019 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の 実行方法	78
--	----

SharePoint 2010/2013/2016/2019 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の 1 つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint データをリストアする必要があります。

1. コンピュータ上のオペレーティングシステムをリストアします。Arcserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。詳細については、「[Disaster Recovery Option ユーザガイド](#)」を参照してください。
2. 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバには、SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 が必要です。
3. 以下を考慮してください。
 - スタンドアロン サーバ - Microsoft SQL Server 2008 Express
 - 単一サーバファームのデータベース サーバ - SQL Server 2008 Express
4. ファーム全体を復旧する場合は、Microsoft SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。SharePoint 製品とテクノロジーの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。
5. 新規ファームを作成した後は、バックアップ操作を開始する前に、すべてのバックアップ サービスが SharePoint 2010/2013/2016/2019 Central Admin で実行されていることを確認してください。

第7章: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定

この付録では、Arcserve Backup 用に Microsoft SQL Server のセキュリティを設定する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Microsoft SQL 認証の種類	80
認証要件	81
Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更	82

Microsoft SQL 認証の種類

Microsoft SQL Server には、次の 2 種類のユーザ認証方法が用意されています。

- Windows ログイン認証を使用する方法
- Microsoft SQL Server 固有のユーザ認証を使用する方法

Microsoft では可能な限り Windows 認証のみを使用するよう推奨していますが、Microsoft SQL Server 認証の方が適切な場合や、Microsoft SQL Server 認証が必要な場合があります。たとえば、データベースがクラスタで実行されている場合には、Microsoft SQL Server 2000 または 2005 の Microsoft SQL Server 認証を使用する必要があります。クラスタの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

認証要件

Microsoft SQL Server 認証を使用する場合は、管理者権限を持つユーザアカウントを指定する必要があります。デフォルトでは、Microsoft SQL Server によって管理者権限を持つ「sa」というアカウントが作成されます。ただし、Agent for Microsoft SharePoint Server では、同等の権限を持つアカウントであるならどれでも使用できます。

Windows 認証を使用している場合、データベースが実行中のマシンに対して管理者と同等の権限を持つアカウントは、通常そのデータベースに対するシステム管理者アクセス権限を持っています。

注：Microsoft SQL Server の BUILTIN\Administrators ログイン エントリが削除されているか、このエントリに管理者権限が含まれていない場合、または管理者権限を持たないユーザ用の別の Microsoft SQL Server ログイン エントリがある場合は、そのデータベースに対するシステム管理者権限が Windows 管理者またはドメイン管理者に自動的に付与されることはありません。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更

Arcserve Backup を使用して、Microsoft SQL Server 認証方法を確認または変更することができます。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更の方法

1. Microsoft SQL Server を実行中のシステムで、Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. [ツリー]ペインで [コンソールルート] を展開して、該当するデータベース サーバを見つけます。
3. そのサーバ名を右クリックしてドロップダウン リストから [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [プロパティ] ダイアログ ボックスで [セキュリティ] タブをクリックします。
5. [認証] フィールドで、以下のオプションからいずれかを選択します。

Microsoft SQL Server および Windows

Microsoft SQL サーバベースの認証を有効にします。

Windows のみ

Windows ユーザ名とパスワードのみを有効にします。

6. [OK] をクリックします。
ユーザ認証処理が設定されました。

第8章:トラブルシューティング

Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を使ったバックアップやリストアに関する問題のトラブルシューティングには、以下の情報が用意されています。

AE9972	84
サイト コレクションを元の場所へリストアできない	85

AE9972

イベント OnRestore において、AE9972 オブジェクト <Component Name> の失敗エラーを受信した場合は、以下のタスクを実行してください。

1. Windows SharePoint Services Administration として表示される SPAdmin Windows サービスを開始します。
2. SharePoint 3.0 Central Administration Web サイトにアクセスし、[Operations]-[Topology and Services]- [Services on Server]を選択します。
3. エージェント マシン サーバを選択し、[Custom]ラジオ ボックスを選択します。
4. [Central Administration]をクリックします。
5. [開始]をクリックします。
6. 失敗したジョブを再実行します。

サイト コレクションを元の場所へリストアできない

サイト コレクション URL を削除すると、削除された元の場所へサイト コレクションをリストアしても失敗します。

以下の手順を実行します。

1. 別の場所へのリストアを実行します。
2. 元の SharePoint Server を選択します。
3. [Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスに新しい URL を入力し、リストアプロセスを完了します。

詳細については、「[SharePoint 2010/2013/2016/2019 での別の場所へのドキュメント レベルリストアの実行](#)」を参照してください。

第9章: 用語集

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

データベースレベルのバックアップ	88
データベースレベルのリストア	89
ドキュメントレベルのリストア	90

データベースレベルのバックアップ

データベースレベルのバックアップでは、SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベースファイルがすべてバックアップされます。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベースレベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

データベースレベルのリストア

データベースレベルのリストアでは、SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のデータベースファイルがすべてリストアされます。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧が発生した場合に SharePoint Server をリストアするために使用します。

ドキュメント レベルのリストア

データベースレベルのリストアに対し、ドキュメント レベルのリストアは、事前にバックアップされた SharePoint Server 2010/2013/2016/2019 のドキュメント レベルのコンポーネントを選択し、リストアするために使用します。